

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方針
○元気なあいさつが響き合い清掃が行き届いた学校 ○教師と子ども相互が共に信頼し合い和やかさの中にも規律ある学校 ○子ども一人一人を全職員で見守り育てようとする学校 ○相手の立場を理解し、協力して共に伸びる子ども ○意欲的に学習し、よく考え、創意工夫する子ども ○心身の健康づくりに励み、明るく元気に行動する子ども ○子どもが「わかった」「できた」という喜びを自分の喜びにできる教師 ○子どもの目を見て話を聞き公平に温かく愛情を持って接する教師 ○授業を互いに見せ合いながら積極的に学び授業の工夫改善に努力する教師		学力の底上げ	2学期制の利点を生かし、適切な時期に児童のニーズに応じた補充・発展指導を実施する。加えて、新学習指導要領の趣旨に沿った「考え・表現する学習」へと向かう授業改善に力を入れる。また、地域人材を活用した放課後学習(新規事業)が円滑に推進できるよう努力したい。
		学級経営の充実	学習環境や学習方法の更なるユニバーサルデザイン化を目指す。同時に教師の対応力強化も図る。とりわけ、学級経営のノウハウを伝授しながら個々の教員の対応力を伸ばすことに注力する。特に、新採用教員については、本年度と同様、特別な配慮と支援ができる体制を築いていきたい。
		若手教員研修の充実	勤務時間内外で、新任教員及び若手講師を対象とした実践的な学びの場(OJT)を設定する。拠点校指導員と連携し実際の授業や生徒指導場面を通して力量を高める研修(OJT)の充実を図る。その両者を組織的・計画的に実施することを通して、若手を即戦力人材へと引き上げる。
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
確かな学力の育成	学期ごとのまとめのテストで国語・算数共に、平均得点85点を達成する。	基礎学力については、学期ごとのまとめのテストで学校全体では目標水準(85点)を上回った。標準テストの結果でも「福岡市の平均と同程度(3・4年)」、「上回っている(5・6年)」という結果を出した。汎用的な学力を身に付けるための「プロジェクト学習」も各学年とも着実に実施した。特に5年生は、「もちつき会」を主体的に運営することを通して、6年生は、「地域合同防災訓練」に向けた防災のまちづくりを追究する学習を通して地域と協働した学びを実現することができた。「自分の考えを表現できた」と答えた子どもの割合も81%と高い。	
	外国語活動のアンケートでコミュニケーションが楽しいと回答する児童80%を達成する。		
	3年生以上の学年で、プロジェクト学習を確実に実施する。6年生は、地域と協働した学びを実現する。		
	言語活動の充実を図る。結果として、授業中に自分の思いや考えを表現できていると回答する児童60%を達成する。		
生徒指導の充実	安全点検・ヒヤリハット事例の報告会(月1回)に加え危機管理研修を実施することで学校事故の減少を図る。	1年間を通して①学校事故の減少、②「挨拶・掃除・思いやりの心」の育成、③不登校ゼロを目標に掲げた。①については、前年度比3割減(前年度42件/本年度30件)を達成している。ヒヤリハットや各種研修の成果が表れたと考える。②については、児童の自己評価(89%・84%・84%)、保護者評価(75%・78%・82%)から、目標は達成できたと考える。③については、現時点で不登校児童はいない。欠席児童に対する連絡100%や不登校傾向児童に対する個別の支援を継続的に行ってきた成果であると考えている。生徒指導部会や校内支援委員会を定期的に開催しチームで課題解決してきたことも学校の安定に寄与した。	
	挨拶指導の徹底を図る。結果として、児童の自己評価・保護者の評価共に80%を達成する。		
	児童のサインに敏感となる。特に欠席児童に対しては、100%連絡をとり状況を把握する。結果、不登校ゼロを達成する。		
	校内支援委員会の充実を図る。常にチームで課題解決にあたり、年間を通して学年・学級の安定を実現する。		
研修の充実・深化 (特に若手教員の育成)	教育情報や学校経営の方針、授業づくりのヒント等を記した教育通信を年間20回を目途に発行する。	教育通信は目標の20回を大きく上回る36回発行した。なかでも、新学習指導要領の概要を10回に分けて紹介したことで理解を深めることができたと考えている。また、外国語活動・英語科を中心に、全教員が研究授業を行った。教科等のエキスパートを講師にした「若年者(だけじゃないよ)研修」の参加者も多く、満足度も高い。スキルアップにつながる研修であったと考えている。加えて、労働安全衛生法で実施が義務づけられている従業員のメンタルチェックの結果も良好であった。定時退校日の確実な実施を通して、職務効率を高めようとする職員の意識も芽生えてきたと考える。	
	全教員が少なくとも1年に1回は研究授業を行う。		
	若手教員のスキルアップを目的とした研修会を年5回を目途に開催する。		
	定時退校日を確実に実施するとともに、職員の福利に資する行事を実施することを通してメンタルヘルスを維持を図る。		
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
意見1:「確かな学力の育成」では、平均得点85点の目標を設定。全職員が一体となって努力し結果を出している。汎用的な学力を育成するためのプロジェクト学習の導入は光るものがあり、思考力・判断力はもちろんのこと、自己表現力が81%とは驚きである。 意見2:「生徒指導の充実」については、ヒヤリハットの導入や各種の研修の成果が見られる。不登校ゼロは嬉しい。個別支援の継続的な努力や課題解決のチーム学校が充実しているからだと思う。 意見3:「研修の充実・深化」については、授業づくりのヒントや新しい教育の展望等を記した教育通信が年間36回発行されたことは本当に素晴らしい。若手教員のスキルアップを目的とした研修、メンタルヘルスも忘れない校長への信頼度も高まっている。			